

・意図せざる？少子化(当然の結果としての人口オーナス⇒負担の分担)
⇒今(学習時)と近未来(自立時)の不連続性⇒構造転換
⇒社会移動の手段(梯子)としての教育の予定調和の「ゆらぎ」
⇒企業(夫の保険)と家族(専業主婦)の負担割合の縮減
⇒日本型中福祉中負担政策・制度・論理の社会的基盤の「ゆらぎ」
・グローバル化⇒大競争時代⇒東アジアの変動
⇒国と軍の棚上げと単一民族富国化幻想の顕在化
⇒「公(官)＞私(民)」+「仕事＞家庭」+「教師＞親」+「男＞女」
⇒入れ子構造の「公」と「私」の関係の流動化
⇒日本型戦後国民教育政策・制度・論理の前提の「ゆらぎ」

人口減少問題視の背景⇒戦後少産化政策・運動による経済成長(人口ボーナス:富の拡大)がもたらす当然の結果(人口オーナス:労働力縮小→負担の拡大)への無自覚

ジェンダーバイアス

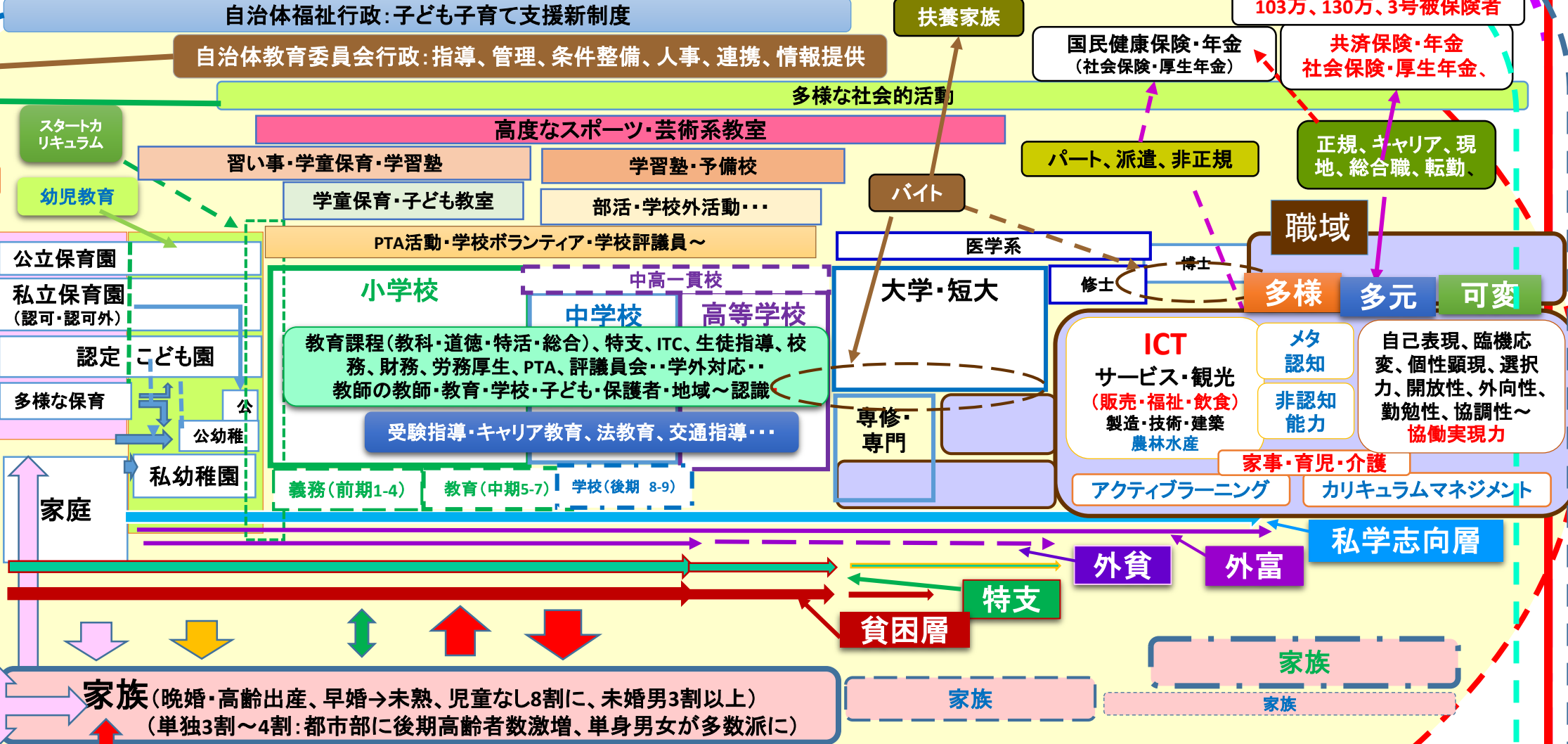
◇ピンチをチャンスに◇
⇒社会システム転換好機⇒危機は旧弊排除正当化◇
⇒男女の自立、個々人の評価基準の多様化、保育と介護の社会化～
・「自律と共同」から「自立と共生」をへて「自立と協働」へ
・子ども観の転換:「家の子」⇒「国の子」⇒「私の子」⇒「社会の子」
◇社会システム転換への担い手育成に◇
⇒高齢者+国民概念の改編⇒法制度の組み換え
⇒就業と福祉の制度改編⇒エイジレス+異文化混在+税と保険の個人化
⇒多様+多元+可変の日常化⇒市民協働の常態化

国の省庁・部局による法と通達 ⇒ 文科 ≧ ≦ 厚労・内閣府・総務・法務・経産・国交・農水・外務

グローバル化⇒大競争時代

人口減少⇒人口オーナス(負担の分担)⇒システム転換好機

推計人口が描く人口減少社会の再定義 → 生涯学習・教育システム再構築 → NPOを含む市民協働システムの創生



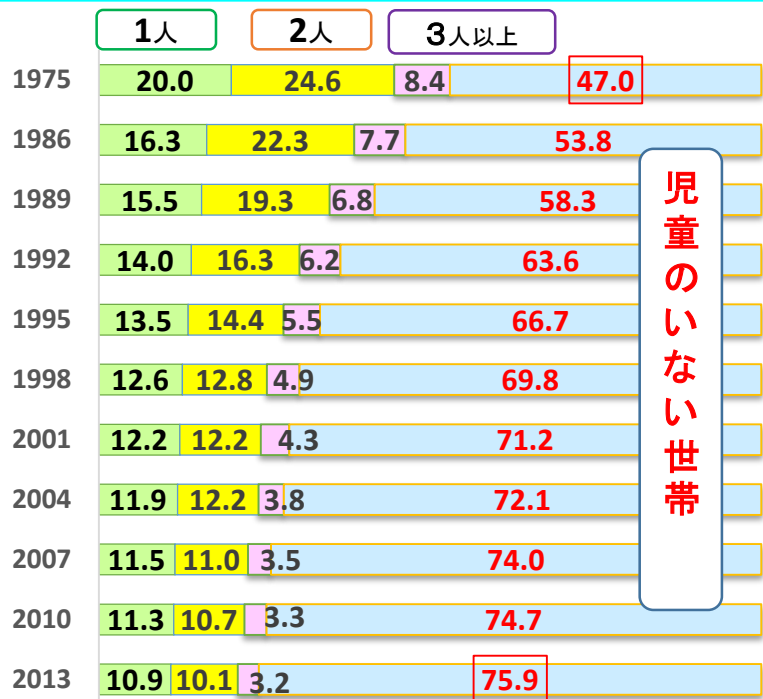
地域概念変貌:血縁+地縁→値縁(利害)+知縁(好悪)→社会層分断化

ネット環境≡テリトリー閉鎖環境

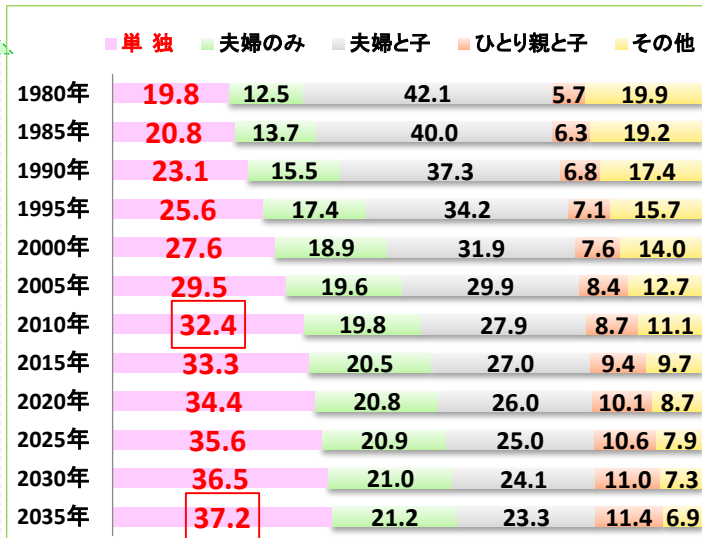
子どもを少なくした 社会的要因改編への要請

少なくなった子どもの教育課題

人口減少時代に応じた 社会システム転換の要請



児童のいない世帯



年次	出生	死亡	自然増
1880	884	603	281
1900	1,421	911	510
1947	2,679	1,138	1,541
1960	1,606	707	899
1973	2,092	709	1,383
2000	1,191	962	229

年次	出生中位	高位	低位
2011	1,059	1,102	1,003
2015	952	1,066	832
2020	836	1,005	688
2025	780	938	642
2030	749	891	619
2035	712	850	586
2040	667	819	533

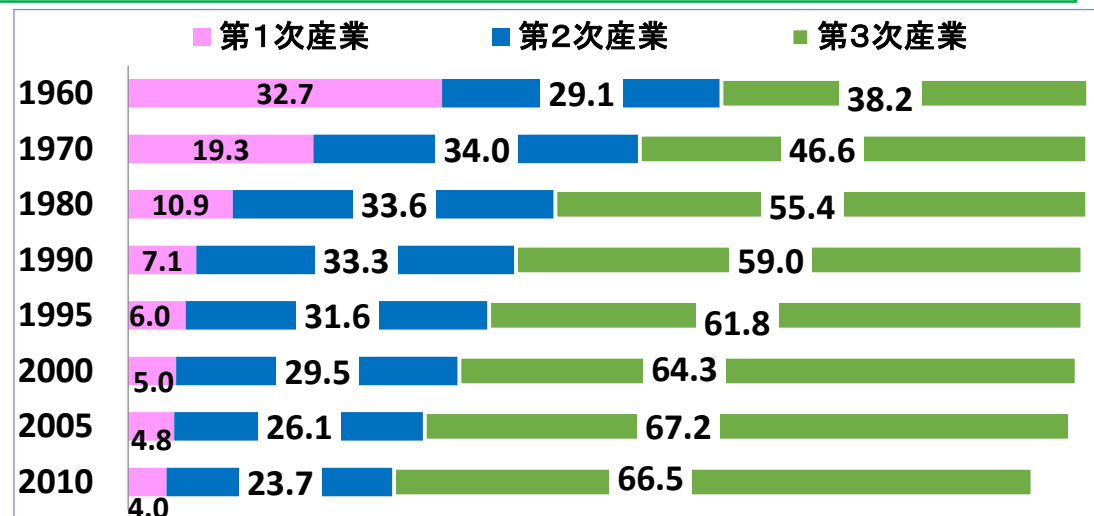
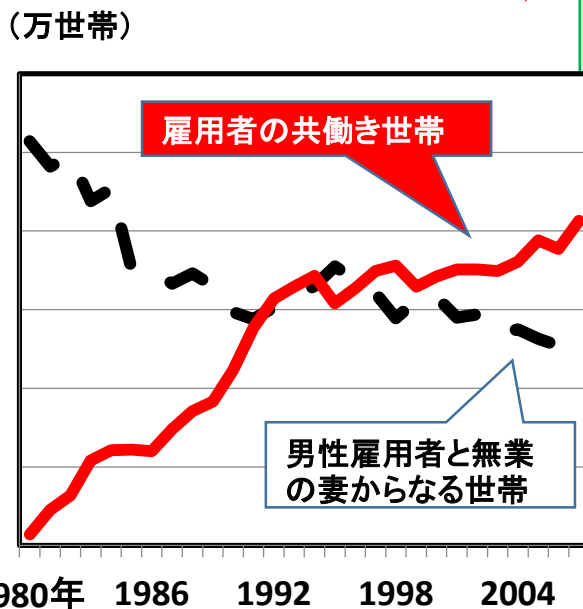
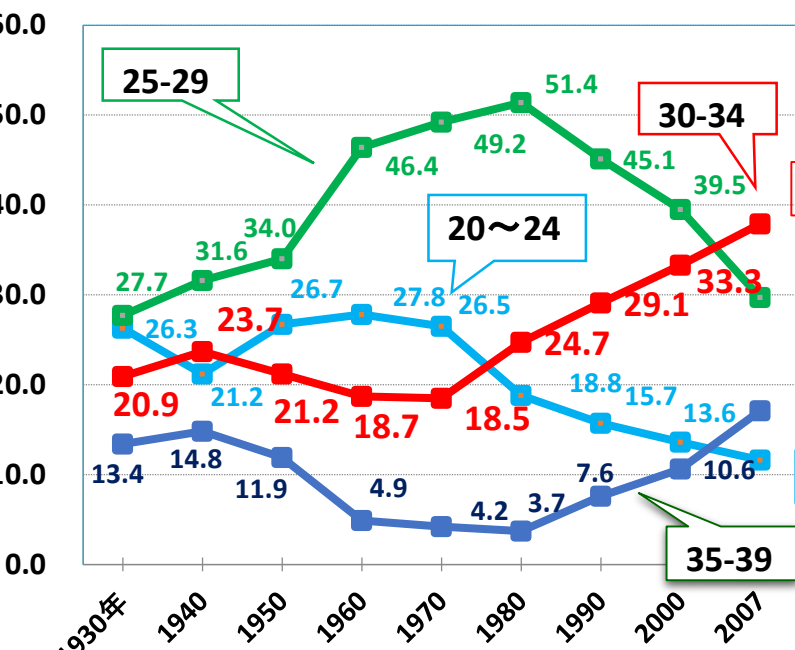
年次	0～14 %	15～64 %	65以上 %	平均年齢歳
1950	35.4	59.7	4.9	26.6
1960	30.0	64.2	5.7	29.1
1970	23.9	69.0	7.1	31.5
1980	23.5	67.4	9.1	33.9
1990	18.2	69.7	12.1	37.6
2000	14.6	68.1	17.4	41.4
2005	13.8	66.1	20.2	43.3

年次	0～14 %	15～64 %	65以上 %	平均年齢歳
2010	13.1	63.8	23.0	45.0
2015	12.5	60.7	26.8	46.5
2020	11.7	59.2	29.1	48.0
2025	11.0	58.7	30.3	49.3
2030	10.3	58.1	31.6	50.4
2035	10.1	56.6	33.4	51.3
2040	10.0	53.9	36.1	52.1

人口減少問題視の背景
⇒戦後少産化政策・運動
による経済成長(人口
ボーナス:富の拡大)がも
たらす当然の結果(人口
オーナス:労働力縮小→
負担の拡大)への無自覚

◇ ピンチをチャンスに ◇

- ⇒社会システム転換好機⇒危機は旧弊排除正当化
- ⇒男女の自立、個々人の評価基準の多様化、保育と介護の社会化～
- ・「自律と共同」から「自立と共生」をへて「自立と協働」へ
- ・子ども観の転換:「家の子」⇒「国の子」⇒「私の子」⇒「社会の子」
- ◇社会システム転換への担い手育成に
- ⇒高齢者+国民概念の改編⇒法制度の組み換え
- ⇒就業と福祉の制度改編⇒エイジレス+異文化混在+税と保険の個人化
- ⇒多様+多元+可変の日常化⇒市民協働の常態化



- ・意図せざる？少子化(当然の結果としての人口オーナス⇒負担の分担
⇒今(学習時)と近未来(自立時)の不連続性⇒構造転換
⇒社会移動の手段(梯子)としての教育の予定調和の「ゆらぎ」
⇒企業(夫の保険)と家族(専業主婦)の負担割合の縮減
⇒日本型中福祉中負担政策・制度・論理の社会的基盤の「ゆらぎ」
- ・グローバル化⇒大競争時代⇒東アジアの変動
⇒国と軍の棚上げと単一民族富国化幻想の顕在化
⇒「公(官)>私(民)」+「仕事>家庭」+「教師>親」+「男>女」
⇒入れ子構造の「公」と「私」の関係の流動化
⇒日本型戦後国民教育政策・制度・論理の前提の「ゆらぎ」

図3 都道府県別15－64歳と65歳以上人口 2010年、2040年

